

日本で唯一の大型ポップコーンマシンメーカー、イズム。社長の飛田秀幸さんが、「海外製のものしかないなら、私がつくる」と25歳で起業した会社だ。日本では市場規模が小さく、海外製品との価格差も大きいというハンデを、独自の販売力とメンテナンス体制により乗り越え、現在では海外展開も視野に事業拡大を続けている。

20年前、日本で稼働しているマシンは全て海外製だった

テーマパークや遊園地、映画館など、アミューズメントの場を盛り上げる食べ物として、まず頭に浮かぶのはポップコーンではないだろうか。最近では定番の塩味のほか、キャラメル、いちごミルク、蜂蜜、カレー、バターしようなゆなどさまざまなフレーバーが登場しており、行列ができるほどの人気を博している。ところが20年ほど前までは、日本で稼働している大型ポップコーンマシンは全てが海外製だった。日本で唯一その製造を手掛けている、イズムの飛田社長はこう振り返る。

「当時、私は機械のメンテナンス会社でアルバイトをしていました。いろいろ扱っていた中でも、食品加工機械は食用油を使うため、ほ

「ないなら自分がつくる」の発想で 新たな市場を切り開く

社名 株式会社イズム
所在地 千葉県松戸市松飛台 241-1
電話 047-389-2621
HP www.ism-ss.co.jp
代表者 飛田秀幸 代表取締役
従業員 18人

イズム

千葉県松戸市

特集1 若手経営者の 挑戦

殻を打ち破れ！ ビジネスの先行きが不安定な状況に負けることなく起業した若い経営者、代を継いだ若い経営者たちが挑む新たな戦略をレポートする。



かの機械とは違う汚れ方をするし、臭いも付くのでメンテナンスが大変なんです。特にポップコーンマシンは故障が多くて社員は誰もやりたがらず、押し付けられているうちにいつの間にか私の担当にされてしまっ……。そこでどうせやるならきちんと勉強しようといういろいろ調べているうちに、日本で大型ポップコーンマシンをつくっている会社は一つもないことに気付きました。『それなら自分でつくっちゃおうか』と思い立っ

たわけです」

平成6年、飛田さんは個人会社を立ち上げ、機械メンテナンスを請け負う傍ら、ポップコーンマシンの製作に乗り出した。試作するにあたって飛田さんが目指したのは、安全で、壊れにくく、焼成スピードの速いマシンだ。

「すぐに故障する海外製品と差別化を図るには、安全で壊れにくいことが大前提でした。また、当時のマシンは原料の豆を投入してから焼き上がるまでに5分ほどか